

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
基礎看護学実習Ⅰ	専任教員	1 年次 後期	1 単位／45 時間
履修条件			
1)実習開始までに以下の単位を取得、もしくはその見込みがあること 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ			
2)授業科目の試験に欠席した場合や出席時間数の不足によってこれらの受験資格がない場合は履修できない			
3)心身ともに健康な状態であることが基本となるので、心身に問題がある人は治療を受け自己管理ができていないこと			
科目目標			
目的：看護を実践する基礎的能力を養う			
目標：			
1)看護活動の実際から看護の役割と機能を理解できる			
2)患者に関心をもち、関係を築くことができる			
3)患者が療養する病室・病床環境を整備することができる			
4)病気、障害をもつこと、入院することによる生活活動への影響が考えられる			
5)指導のもと基本的な日常生活援助技術を実施できる			
6)実習で感じたこと、考えたこと、学んだことを述べられる			
7)専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院 病棟 心臓血管センター金沢循環器病院 病棟 金沢脳神経外科病院 病棟		実習内容、カンファレンスの内容、実習記録、実習態度、事前学習等から総合的に判断する	
授業計画			
1.実習期間および実習時間			
1 年次 後期			
45 時間 臨地実習 7 時間×6 日間 9:00-15:15 (休憩 1 時間)			
学内まとめ 3 時間			
2.実習方法			
・ 病院の看護管理者から実習病院の概要・組織・機能・看護部の活動について話を聴く(実習 1 日目)			
・ 看護部の看護理念（方針）・看護活動目標・各病棟の看護活動目標および看護方式について話を聴く			
・ 一人の看護師について看護活動を見学し看護の役割と機能を学ぶ			
・ 患者を 1 名受け持つ(実習 2 日目)			
・ 受け持ち患者とのコミュニケーションを通して療養生活を知る			
・ 受け持ち患者の個別を考え日常生活援助を計画する			
・ 計画した生活援助を実施し、評価する			
・ 学内にて振り返り・情報共有・グループでのまとめ(最終日)			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
基礎看護学実習Ⅱ	専任教員	2 年次 後期	2 単位／90 時間
履修条件			
1)実習開始までに以下の単位を取得、もしくはその見込みがあること 臨床看護総論・看護過程・基礎看護技術Ⅵ・Ⅶ			
2)授業科目の試験に欠席した場合や出席時間数の不足によってこれらの受験資格がない場合は履修できない			
3)心身ともに健康な状態であることが基本となるので、心身に問題がある人は治療を受け自己管理ができていないこと			
科目目標			
目的：看護を実践する基礎的能力を養う			
目標：			
1)患者やその家族を理解するために自分から関わるができる			
2)患者の身体的状態を理解するためのフィジカルアセスメントを実施できる			
3)看護過程を用いて科学的思考に基づいた看護援助を実施する			
4)専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院 病棟 心臓血管センター金沢循環器病院 病棟 金沢脳神経外科病院 病棟		実習内容、カンファレンスの内容、実習記録、実習態度、事前学習等から総合的に判断する	
授業計画			
1.実習期間および実習時間			
2 年次 後期			
90 時間 学内オリエンテーション 2 時間			
臨地実習	8 時間×10 日間	9:00-16:00 (休憩 1 時間)	
学内まとめ	8 時間×1 日間		
2.実習方法			
・患者を 1 名受け持つ			
・患者とその家族を理解するためにコミュニケーションをする			
・身体状態を理解するためにフィジカルアセスメントをおこなう			
・看護過程を展開し援助を行う(実施経過記録まで)			
・学内にて実習・看護実践の振り返りを GW・プレゼンテーション(最終日)			

専門分野：地域・在宅看護論実習

科目名	科目担当者	実習時期	単位数／時間数
地域・在宅看護論実習Ⅰ	専任教員	1 年次	2 単位／60 時間
履修条件			
看護学概論、地域・在宅看護論概論Ⅰを終了していること。			
目的・科目目標			
目的：地域で暮らしをしている人々や支援の場を理解する。			
目標：1．地域で暮らしている人々を理解する。 2．地域で暮らしている人々を支える社会資源を理解する。 3．専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
健診センター、有料老人ホーム 浅ノ川総合病院外来		出席状況・実習内容・実習態度・実習記録・事前学習	
授業計画			
1．実習時期および実習時間 学内：4 時間（オリエンテーション） 8 時間（学内） 臨地：1 日 8 時間 6 日間 〈内訳〉 健診センター ： 2 日間 外来 ： 2 日間 介護付き有料老人ホーム ： 2 日間			
2．実習方法 1）健診センター実習は健康診断を受ける場面を見学する。 2）外来実習は外来を利用する人々が受診する場面を見学する。 3）介護付き有料老人ホーム実習は入所している人々の生活場面を見学する。			
その他、詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	実習時期	単位数／時間数
地域・在宅看護論実習Ⅱ	専任教員	3年次	2単位／90時間
履修条件			
地域・在宅看護論概論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを修了していること。			
目的・科目目標			
目的：在宅で療養している人々や家族を理解し、在宅看護の実践を学ぶ。			
目標：1. 地域で療養する人々とその家族を理解し、居宅や施設での看護を学ぶ。 2. 地域で療養する人々とその家族を支える社会資源の種類と活用法を理解する。 3. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
訪問看護ステーション デイケア（通所リハビリテーション）施設 地域包括支援センター 浅ノ川総合病院入退院センター		出席状況・実習内容・実習態度・実習記録・事前学習	
授業計画			
1. 実習時期および実習時間 学内：2時間（オリエンテーション） 8時間（学内） 臨地：1日8時間 10日間 〈内訳〉 訪問看護実習：4日間 通所（デイケア）実習：4日間 地域包括支援実習：2日間			
2. 実習方法 1）訪問看護実習では居宅訪問に同行し、療養する人々とその家族の暮らしの実践を見学する。 2）デイケア（通所）実習では施設を利用する人々の暮らしの実践を見学する。 3）地域包括支援実習では地域包括支援センター、入退院センターを利用する人々の実践を見学する。			
その他、詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
成人・老年看護学実習Ⅰ	専任教員	3年次	2単位/90時間
履修条件			
基礎看護学実習Ⅱ及び地域・在宅看護論実習Ⅰを修了していること。成人看護学概論・老年看護学概論を修了し、成人看護学Ⅰ・成人看護学Ⅱ・成人看護学Ⅲ・成人看護学Ⅳ・成人看護学Ⅴと、老年看護学Ⅰ・老年看護学Ⅱ・老年看護学Ⅲを終了していること。			
科目目標			
目的:健康障害をもつ成人期又は老年期の患者と家族の特性を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。			
目標:1. 健康障害をもつ成人期の患者と家族を理解する。 2. 健康障害をもつ老年期の患者と家族を理解する。 3. 健康障害をもつ成人期の患者の看護を実施する。 4. 健康障害をもつ老年期の患者の看護を実施する。 5. 保健・医療・福祉チームにおける協働・連携の必要性和看護の役割について理解する。 6. 専門職業人をを目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所	評価方法		
浅ノ川総合病院(病棟) 千木病院(病棟)	実習内容、カンファレンス、リフレクション、実習記録、実習態度、事前学習等から総合的に判断する。		
授業計画			
1. 実習期間および実習時間 学内実習:2時間(オリエンテーション) 臨地実習:1日8時間 10日間 学内実習:1日8時間(リフレクション)			
2. 実習方法			
1)病棟:10日間 (1)健康障害をもつ成人期又は老年期の患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 (2)中間カンファレンスでアセスメントの内容・看護診断・計画立案が適切か検討する。 (3)最終カンファレンスで実習のまとめを行い、実習目標の到達度、今後の課題の明確化を図る。 (4)実習中に多職種によるカンファレンスを見学し、保健・医療・福祉の連携の必要性和看護の役割を学ぶ。			
2)学内実習:1日間 (1)リフレクション(学内実習)で、「自己理解」「自己の問題発見」「自己肯定感」「看護に対する意味づけ」を行い看護観を形成する。			
実習ローテーション			
学内2時間	全体オリエンテーション		
病棟1日目	病棟オリエンテーション、情報収集		
病棟2～3日間	情報収集、情報の整理		
病棟4～5日目	全体像の把握、看護診断、看護計画、中間カンファレンス		
病棟6～9日目	看護計画の実施 看護計画の修正・変更・評価		
病棟10日目	看護計画の実施 看護計画の修正・変更・評価、最終カンファレンス		
学内11日目	リフレクション		
その他、詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
成人・老年看護学実習Ⅱ	専任教員	3年次	2単位/90時間
履修条件			
基礎看護学実習Ⅱ及び地域・在宅看護論実習Ⅰを修了していること。成人看護学概論・老年看護学概論を修了し、成人看護学Ⅰ・成人看護学Ⅱ・成人看護学Ⅲ・成人看護学Ⅳ・成人看護学Ⅴと、老年看護学Ⅰ・老年看護学Ⅱ・老年看護学Ⅲを終了していること。			
科目目標			
目的:健康障害をもつ成人期又は老年期の患者と家族の特性を理解し、対象に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。			
目標:1.リハビリテーションを必要とする成人期の患者と家族を理解する。 2.リハビリテーションを必要とする老年期の患者と家族を理解する。 3.リハビリテーションを必要とする成人期の患者の看護を実施する。 4.リハビリテーションを必要とする老年期の患者の看護を実施する。 5.保健・医療・福祉チームにおける協働・連携の必要性和看護の役割について理解する。 6.専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所	評価方法		
金沢脳神経外科病院 (病棟 SCU)	実習内容、カンファレンス、リフレクション、実習記録、実習態度、事前学習等から総合的に判断する。		
授業計画			
1. 実習期間および実習時間 学内実習:2時間(オリエンテーション) 臨地実習:1日8時間 10日間 学内実習:1日8時間(リフレクション)			
2. 実習方法			
1)病棟:9日間 (1)リハビリテーションを必要とする成人期又は老年期の患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。 (2) 中間カンファレンスでアセスメントの内容・看護診断・計画立案が適切か検討する。 (3) 最終カンファレンスで実習のまとめを行い、実習目標の到達度、今後の課題の明確化を図る。 (4) 実習中に多職種によるカンファレンスを見学し、保健・医療・福祉の連携の必要性和看護の役割を学ぶ。			
2)SCU:1日間 (1)SCUで急性期看護を見学し、集中治療室の看護の役割と機能を学ぶ。			
3)リフレクション:1日間 (1)リフレクション(学内実習)で、「自己理解」「自己の問題発見」「自己肯定感」「看護に対する意味づけ」を行い看護観を形成する。			
実習ローテーション			
学内2時間	全体オリエンテーション		
病棟1日目	病棟オリエンテーション、情報収集		
病棟2～3日間	情報収集、情報の整理		
病棟4～5日目	全体像の把握、看護診断、看護計画、中間カンファレンス		
病棟6～9日目	看護計画の実施 看護計画の修正・変更・評価、最終カンファレンス		
病棟10日目	SCU		
学内11日目	リフレクション(学内実習)		
その他、詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数/時間数
成人・老年看護学実習Ⅲ	専任教員	3年次	2単位/90時間
履修条件			
基礎看護学実習Ⅱ及び地域・在宅看護論実習Ⅰを修了していること。成人看護学概論・老年看護学概論を修了し、成人看護学Ⅰ・成人看護学Ⅱ・成人看護学Ⅲ・成人看護学Ⅳ・成人看護学Ⅴと、老年看護学Ⅰ・老年看護学Ⅱ・老年看護学Ⅲを終了していること。			
科目目標			
目的： 特殊な治療を受ける成人期又は老年期の患者の特性を理解し、対象に応じた看護を学ぶ。			
目標： 1.特殊な治療(手術療法、透析療法、集中治療)を受けている成人期の患者を理解する。 2.特殊な治療(手術療法、透析療法、集中治療)を受けている老年期の患者を理解する。 3.特殊な治療を受ける成人期の患者の看護を理解する。 4.特殊な治療を受ける老年期の患者の看護を理解する。 5.専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
心臓血管センター金沢循環器病院 (病棟 HCU) 浅ノ川総合病院 (透析室 手術室)		実習内容、実習記録、実習態度、事前学習等から総合的に判断する。	
授業計画			
1. 実習期間および実習時間 学内実習:10時間(オリエンテーション)2日間 臨地実習:1日8時間 10日間			
2. 実習方法			
1)学内で教員からオリエンテーションを受ける。 2)特殊な治療環境で行われる主な検査・治療に伴う看護を事前学習し臨む。 3)成人期又は老年期の患者の検査・治療に伴う看護の実際を見学する。 4)成人期又は老年期の患者の透析療法の実際を見学し、看護の役割を理解する。 5)成人期又は老年期の患者の手術療法の実際を見学し、看護師の役割を理解する。 6)成人期又は老年期の患者の集中治療の実際を見学し、看護の役割を理解する。 4)5)6)は、実習最終日にカンファレンスを行う。			
実習ローテーション			
学内 2時間	全体オリエンテーション		
臨地 2日間	病棟		
臨地 3日間	集中治療室(HCU)、カンファレンス		
学内 1日間	実習オリエンテーション、振り返り		
臨地 3日間	手術室、カンファレンス		
臨地 2日間	透析室、カンファレンス		
その他、詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
老年看護学実習	専任教員	3年次	2単位／90時間
履修条件			
基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学Ⅰ・老年看護学Ⅱ・老年看護学Ⅲを修了していること。			
科目目標			
目的:認知機能の低下や加齢変化に伴う高齢者の特徴を理解し、対象の生活状況に応じた看護を行うための基礎的能力を養う。			
実習目標			
1．対象の生活史や価値観を理解し、尊重した態度がとれる。			
2．対象の身体的・心理的・社会的特徴と生活への影響を理解する。			
3．対象の個別性・多様性を尊重した援助の必要性和方法を理解する。			
4．高齢者の生活を支える職種の役割について理解する。			
5．専門職業人を目指す者としての学習姿勢、態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
介護老人保健施設 千木町ケアセンター 田中町温泉ケアセンター 福久ケアセンター		出席日数、実習態度、実習記録、カンファレンス、リフレクションの内容をふまえ、総合的に評価する	
授業計画			
1. 実習期間および実習時間			
学内:2 時間(オリエンテーション)			
臨地:1 日 8 時間 11 日間			
2. 実習方法			
1) 老年期にある高齢者 1 名を受け持つ。			
2) 老年期にある対象の生活と日常生活援助の実際を見学し援助する。			
3) 中間カンファレンスを行い、印象に残った場面を振り返り、対象の看護に生かす。			
4) 最終カンファレンスで実施した看護を振り返る。			
1 日目	施設オリエンテーション、情報収集		
2～4 日	ケア見学、一部共に実施		
4～5 日目	中間カンファレンス(リフレクション)		
6～10 日	援助実施		
11 日目	最終カンファレンス		
その他、詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
小児看護学実習	専任教員	3 年次	2 単位／90 時間
履修条件			
基礎看護学実習Ⅱ、小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲを修了していること。 1 年次の健康診断で、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価が基準値を下回っていた場合は、アレルギーなどの禁忌がない限り、計画的に予防接種を行い、2 年次までに抗体を獲得しておかなければならない。			
科目目標			
目的:小どもの成長・発達を理解し、健康障害のある小子どもと家族の看護を実践するための基礎的能力を養う。 目標: 1. 小どもの成長・発達、健康増進のための看護を理解する。 2. 健康障害のある小児と家族への看護を理解する。 3. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度を養う。			
実習施設		評価方法	
1) 千坂こども園・かみやちこども園・小金こども園・東金沢こども園のうちいずれか 1 施設 2) 浅ノ川保育所・はあと保育園のうちいずれか 1 施設 3) 金沢医科大学病院(小児病棟、NICU・GCU、小児科外来)		事前学習、出席状況、実習内容、 実習態度、実習記録	
授業計画			
1. 各実習施設における実習時間および実習期間 学内:10 時間 (オリエンテーション、リフレクション) 臨地:80 時間 1 日 8 時間×10 日間			
2. 実習方法			
1) 保育施設での実習は、保育教諭・職員の指導および助言のもとで実習する。 2) 病院での実習は、助産師および看護師の指導・助言のもとで実習する。 3) カンファレンスは、保育施設の実習では認定こども園での実習最終日に行う。保育所実習においてのカンファレンスは実施しない。病院の実習では実習 5 日目に行う。			
実習ローテーション			
4 日間	保育施設	認定こども園	カンファレンス
1 日間		保育所・保育園	
3 日間	病院	小児病棟	カンファレンス
1 日間		NICU・GCU	カンファレンス
1 日間		小児外来	カンファレンス
※詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
母性看護学実習	専任教員	3年次	2単位／90時間
履修条件			
基礎看護学実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学Ⅲを修了または、単位取得の見込みがあること。			
科目目標			
目的：妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の特性・特徴を理解し対象に応じた看護を行うための基礎的能力を養う。			
目標：			
1. 妊娠期・分娩期・産褥期の経過とそれらに伴う母性の特性を身体的、心理・社会的側面から理解する。			
2. 妊娠期・分娩期・産褥期に応じた看護を理解する。			
3. 妊娠期・分娩期・産褥期にある人の看護を行うための看護技術を習得する。			
4. 新生児の特徴を理解し、看護を行うための看護技術を習得する。			
5. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と援助を通して母性観を深める。			
6. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢、態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院 産科センター、産婦人科外来		出席状況、実習内容、実習記録、 カンファレンスの内容、実習態度、事前学習	
授業計画			
1. 実習期間および実習時間			
学内：2時間（オリエンテーション）			
臨地：1日8時間 11日間			
2. 実習方法			
1) 産婦人科外来（妊娠期）・褥室（産褥期）・新生児室（新生児期）をローテーションで実習する。			
2) 妊婦健診の見学、機会があれば介助を行い妊娠期の看護を理解する。			
3) 褥婦・新生児を受け持ち、看護過程を展開する。			
4) 妊娠期や出産後に行われる集団指導の見学・参加や個人指導の見学をする。			
5) 機会があれば産婦の援助、分娩の見学をする。			
6) カンファレンスは「中間（テーマ）カンファレンス」、「最終（実習のまとめ）カンファレンス」を行う。			
実習ローテーション			
2日間	外来実習	外来実習	
9日間	産科センター	分娩見学、出生直後の新生児の見学	
		中間カンファレンス(リフレクション)	
		産褥・新生児実習	
		最終カンファレンス	
その他、詳細は実習要項参照			

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
精神看護学実習	専任教員	3年次	2単位／90時間
履修条件			
基礎看護学実習Ⅱ、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ、精神看護学Ⅲを修了していること			
科目目標			
目的:精神に障害をもつ人及びその家族の理解を深め、精神の健康回復への看護ができる基礎的能力を養う。			
目標:1. 精神に障害をもつ人の理解を深める。 2. 患者のセルフケア能力をアセスメントし、必要な援助を行う。 3. 自分の感情の行動の傾向に気づき、自己洞察する。 4. 精神科医療の特殊性と看護の役割が理解する。 5. 専門職業人を目指す者としての学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
桜ヶ丘病院		出席状況、実習内容、カンファレンスの内容、実習記録、実習態度、事前学習	
授業計画			
1. 実習期間および実習時間 学内:2時間(オリエンテーション) 臨地:1日 8時間×11日間			
2. 実習方法 1)1人の患者を受け持ち、オレム/アンダーウッド理論を使って看護過程を実施する。 2)看護場面の再構成を行い、自己洞察する。 3)1日デイケアセンターで実習を行い、地域で生活する精神障害者を理解する。 4)カンファレンスは、「再構成のカンファレンス」「中間(看護過程)カンファレンス」「テーマカンファレンス」「最終(実習のまとめ)カンファレンス」を実施する。			
その他、詳細は実習要項参照			

統合分野：統合実習

科目名	科目担当者	開講時期	単位数／時間数
統合実習	専任教員	3 年次後期	2 単位／ 9 0 時間
履修条件			
統合実習には、実習開始までに以下の科目の単位を取得、もしくはその見込みがなければならない。 看護管理、医療安全、災害看護、看護倫理、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学実習、小児看護学実習、精神看護学実習、地域・在宅看護論実習Ⅱ			
科目目標			
目的：保健医療チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力を養う。			
目標：1．組織の一員としての看護師長の役割を理解し、看護管理の実際を学ぶ。 2．看護チームのリーダーの役割とその実際を学ぶ。 3．看護チームのメンバーの役割とその実際を学び、複数患者に必要な看護を実践する。 4．働く自分をイメージし、看護専門職を目指す自己の課題を明らかにする。 5．専門職業人を目指す者としての、学習姿勢・態度をもつ。			
実習場所		評価方法	
浅ノ川総合病院 金沢脳神経外科病院 心臓血管センター金沢循環器病院		出席状況、実習内容、カンファレンスの内容、実習記録、 実習態度、事前学習	
授業計画			
1．実習時間 学内：2 時間（オリエンテーション） 臨地：1 日 8 時間 1 0 日間 学内：8 時間（実習まとめ） 2．実習内容 看護管理実習 リーダー実習 メンバー実習（複数患者受け持ちを含む） その他詳細は実習要項参照			